

◆ 平成 27 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）計画一覧

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化学部 国際文化学科	秋山 伸隆	9月8日(火) 教授会・専攻会議終了 後	1212 会議室	<p>テーマ 大学基礎セミナーの教育方法に関する報告・意見交換会</p> <p>実施目的 本年度に開始した全学共通教育科目・初年次導入の「大学基礎セミナー」は、基本的には学科の教員全員がいずれは担当することになる科目である。中間アンケートの結果を見ると、各教員の指導に対する学生たちの満足度はかなり高いものであった。そこで、本年度の担当者による報告を聞き、学科の教員相互で学びあう機会を設けて、次年度以降の、本科目の更なる充実に結び付けたい。</p> <p>実施内容 (キーワード：大学で学ぶ姿勢、レポートの書き方、アクティブラーニング) 上記3つのキーワードを中心に、本年度の担当者が試みた様々な工夫や具体的な授業方法について、学科の教員全員で情報を共有し、意見交換を行う。</p>
人間文化学部 国際文化学科	柳川 順子 船津 晶代	9月15日(火) 13:00~17:00	1212 会議室	<p>テーマ 組織的教育の実現に向けての情報交換会</p> <p>実施目的 国際文化学科は、多彩な専門科目から成り立っているために、学生たちには各科目の相互関係が見えづらく、中には体系的な学修に至らぬものも少なくない。この事実を踏まえて、現在本学科では具体的な履修モデルを作成しているところであるが、この検討を更に深化させ、学科としての組織的な教育を実現させるために、まず、専門教育の中核を為す各「論」の教育内容を、教員全員で共有する必要があると考えた。授業方法を磨き上げるためのFDではなく、授業相互の結びつきを模索するためのFDである。</p> <p>実施内容 (キーワード：組織的教育、各「論」の教育目標、シラバスの共有) 学科を構成する全ての教員が、自身の持つ「〇〇論」の教育目標とシラバスを持ち寄り、これを冊子にする。この冊子をもとに、各教員が、学科の全構成員に向けて、自身の「論」が本学科の教育体系において占める位置を説明する会を設ける。この会は、学生に向けても開かれたものとする。</p>
人間文化学部 国際文化学科	富田 和広	調整中	未定	<p>テーマ 教員のファシリテーション能力向上のための実践的研修</p> <p>実施目的 学生たちの能動的な学修を促すために、彼らから発言を引き出し、これに適切な筋道を付けてゆく能力が教員に求められていることは大方共有されている認識だが、未だ十分な実践には至っていないのが現状である。また、ファシリテーター養成講座を教員が受講する方法では、時間的な制約などもあって多くの参加者が見込めない。そこで、専門家によって理想的に展開される授業を観察することにより、具体的な実践方法を学ぶという方法を取る。</p> <p>実施内容 (キーワード：能動的学修、ファシリテートされた授業、観察型研修) 本学部の学生を中心に受講者を募り、外部の専門家による授業を実施する。教員はその授業を見学し、学生の発言や反応に対する専門家の対応や働きかけを観察する。同じ内容の授業を2セット設け、いずれかの受講でひととおりを学ぶことができるようにする。毎回振り返りの時間を設け、最後には全学に向けてワークショップを開催する。</p>
人間文化学部 健康科学科	江島 洋介 谷本 昌太	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、毎月第2または3火曜日(学科会議終了後) ・随時、学生支援室と連携する。専門家の招聘した学習会は未定である。 	会議室等	<p>テーマ 健康科学科における学生支援活動の継続・発展</p> <p>実施目的 現在、健康科学科においてもさまざまな理由で課題を抱える学生がいる。これまで、学科においてその情報共有を行いこれらの学生の支援を行ってきた。そこで、学科における学生支援活動の継続さらには発展させる目的で、本年度も、学生の動向の把握、情報の共有を行うとともに、支援方法の検討、支援状況の学科へのフィードバック、支援方法の共有を行う。</p> <p>実施内容 (キーワード：情報共有 支援方法 ノウハウの共有) 毎月一回、課題を抱える学生に関する情報を学科内で把握・共有・記録する。支援の必要性がある場合、支援方法の検討、支援状況の学科へのフィードバック、支援方法の共有を行う。学生支援室との連携のもと支援を実施するとともに、必要が生じた場合は、専門家を招聘し支援方法の学習会を実施する。</p> <p>その他 勉強会の場合は学部全体に事前に内容等についてメールにて案内し、他学科よりの参加者を認める。</p>

<p>経営情報学部 経営学科・ 経営情報学科</p>	<p>学部長 学科長 学部教務委員 学部カリキュラム検討委員</p>	<p>高等教育推進部門会議，教育課程表作成，時間割編成などの日程に合わせ，適切に時間をとり，検討を重ねていく。</p>	<p>会議室等</p>	<p>テーマ 平成 28 年度以降の教育プログラムの見直しおよびナンバリングへの対応 実施目的 平成 27 年度からの全学共通教育の新教育プログラムの実施にともない，学部学科の教育プログラムについても順次，教育改革の確実な実施が求められている。また，体系的な教育プログラムを明示する目的から，大学全体の流れとして教育プログラムの可視化を主な目的としたナンバリング導入の検討が各部局に課せられている。本学部学科においても，これまで教育プログラムの見直しは継続的に行ってきたが，全体との整合性を検証しつつ，平成 28 年度からの学部学科の新教育プログラムを提示する必要がある。 実施内容 (キーワード：教育プログラム，ナンバリング) <ul style="list-style-type: none"> 平成 28 年度以降の新教育プログラムの作成および体系化 教育プログラムの可視化を目的としたナンバリング導入の検討 </p>
<p>経営情報学部 経営情報学科</p>	<p>竹本 康彦 市村 匠 佐々木 宣介 重安 哲也 富田 哲治 広谷 大助</p>	<p>毎回の授業，学科会議 (情報集約や意見交換)</p>	<p>各授業の実施場所等</p>	<p>テーマ スマートタブレットによる出席管理システムを用いた要支援学生の早期発見と情報共有に関する取り組み 実施目的 大学や企業等での IC カード認証化が進む現代情報社会において，情報学を専攻する学生として IC カードを常時携帯し，認証操作に精通すること。授業の出席情報をリアルタイムに集計し，履修科目の遅刻・欠席状況を調査すること。遅刻・欠席が多い学生などの要支援学生を早期に発見して，チューター，教学課が連携して学生のサポートを行うために必要な情報を調査すること。調査した情報をもとに，学生の遅刻・欠席回数を減らすための授業改善を行うこと。 実施内容 (キーワード：IC 認証，授業改善，要支援学生の早期発見) <ul style="list-style-type: none"> 学生向けスマートタブレットを用いた IC カード認証ベース出席システムの説明を行い，情報の取り扱いについて承諾を得る。 授業前にすべての学生の IC カード，顔写真等をシステムに登録する。 学生の履修情報から授業ごとに担当科目の履修情報を抽出しシステムに登録する。 遅刻・欠席情報を，週ごと，月ごと，学期ごとに集計する。 長期欠席者を発見した場合には，学科で対応する体制を整える。 学科会議等において状況を報告し，情報の集約並びに共有を図り，適宜対応を議論する。 </p>
<p>生命環境学部 生命科学科</p>	<p>五味 正志</p>	<p>未定</p>	<p>未定</p>	<p>テーマ 大学基礎セミナーの実施方法改善についての検討 実施目的 今年度から，初年次導入科目の「フレッシュマンセミナー」が「大学基礎セミナー」に変更され，それに伴い能動的学修に必要な技能修得が求められている。このことから，本年度より大学基礎セミナーの実施方法を，課題について主体的に調査させ，それについて少人数形態で討論を行なう方法に変更した。本 FD 活動では，今年度の結果を踏まえて，実施方法の改善について検討することを目的とする。 実施内容 (キーワード：課題調査，少人数，討論) 本年度の大学基礎セミナーでは，卒論担当の教員から簡単な説明を加えて課題を提案し，学生に課題内容について調査したレポートを作成させ，それを基に少人数で学生間及び教員を加えて討論を行なった。その後，討論を経験したことで，自分の意見がどのように変化したのかを確認するため，討論の内容を踏まえて再度レポートを作成させた。この過程を 2 回繰り返した。 本 FD 活動では，この方法について学生にアンケートを実施し，問題点を明確にする。 </p>
<p>生命環境学部 環境科学科</p>	<p>環境科学科長 原田 浩幸</p>	<p>未定</p>	<p>未定</p>	<p>テーマ 大学基礎セミナーにおけるグループワークの方法改善 実施目的 今年度から 1 年次前期に開講された大学基礎セミナーにおいて，環境科学科では，学生 4 名程度のグループで環境にかかわる職業について調査・整理させ，発表会で報告させることとした。その職業に就くために，あるいは連資格を取得するために，どのような科目を学ぶ必要があるかを調べさせ，早い段階から学生にカリキュラムの内容認識させることとした。しかし，いくつかの問題点が顕在化したため，本 FD では，大学基礎セミナーの改善を主目的として，今年度の実施方法を所属教員で振り返り，結果を次年度へ反映させることとする。また，理科系教育において専門知識の習得に加え，問題解決能力の養成や専門コミュニケーション力の向上等が急務となっており，(Project-Based Learning, 課題解決型学習) の導入事例が近年，増えている。そのため，PBL に関する情報収集 </p>

				<p>に大学初年度向け)を併せて行うこととする。</p> <p>実施内容 (キーワード: 大学基礎セミナー, カリキュラム, PBL)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の大学基礎セミナーを振り返り, 問題点等をまとめ, 改善点を検討する。また, 学生が主体的に取り組むためには, どのような構成にすればよいかを再度検討する。 ・PBLに関する情報収集を行う。 																				
保健福祉学部 看護学科	黒田 寿美恵	随時	三原キャンパス	<p>テーマ ①アクティブ・ラーニングに関する情報交換②FD マザーマップ*を用いた看護学科教員のFD ニーズ調査と調査結果を用いた研修会の実施 *FD マザーマップ: 看護系大学教員として備えるべき能力を行動レベルで示した体系的な見取り図, 千葉大学看護実践教育指導センター開発</p> <p>実施目的 テーマ① 学生の主体的な学びを促進するための方法をより多くの科目に導入するために, 既に実施しているアクティブ・ラーニングの方法や研修会等で新たに獲得した知識を相互に紹介し合い参考にする。</p> <p>テーマ② FD マザーマップは, 看護系大学教員として備えるべき能力を, 「基盤」(看護系大学教員としての基礎力, 看護専門職としての基礎力)を中心に, 「教育」「研究」「運営」「社会貢献」に分けて行動レベルで自己点検することができるチェックリストを提供しているが, 今回はこのリストをニーズ調査に用いることで, 看護学科教員のFD ニーズを明確化し, その上でFD 研修会を企画することとした。</p> <p>実施内容 (キーワード: アクティブ・ラーニング, FD マザーマップ)</p> <p>テーマ① アクティブ・ラーニングに関する情報交換</p> <table border="1"> <tr> <td>6月25日(木) I 限目</td> <td>I. 「アクティブ・ラーニングの基礎知識」の伝達講習 II. 成人看護方法論におけるチーム基盤型学習 (TBL) の取り組み実例</td> </tr> <tr> <td>7月17日(金) IV限目</td> <td>「看護教育力UPセミナー 看護教員のための授業力UPのポイント～学生の活動性を高める授業づくり～」の伝達講習</td> </tr> <tr> <td>8月7日(金) I 限目</td> <td>iPad で操作する3D解剖アトラスを導入した解剖実習の試み</td> </tr> <tr> <td>9月1日(火) IV限目</td> <td>協同学習を活用した授業の紹介</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>シミュレーション教育の実例①老年看護方法論</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>シミュレーション教育の実例②成人看護方法論</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例①ロールプレイ</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例②模擬患者演習</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>グループディスカッションに関する実践報告</td> </tr> </table> <p>テーマ② FD マザーマップのニーズ調査結果に基づく研修会</p> <table border="1"> <tr> <td>8月25日(火) IV限目</td> <td>カリキュラム編成の考え方</td> </tr> </table>	6月25日(木) I 限目	I. 「アクティブ・ラーニングの基礎知識」の伝達講習 II. 成人看護方法論におけるチーム基盤型学習 (TBL) の取り組み実例	7月17日(金) IV限目	「看護教育力UPセミナー 看護教員のための授業力UPのポイント～学生の活動性を高める授業づくり～」の伝達講習	8月7日(金) I 限目	iPad で操作する3D解剖アトラスを導入した解剖実習の試み	9月1日(火) IV限目	協同学習を活用した授業の紹介	10月	シミュレーション教育の実例①老年看護方法論	11月	シミュレーション教育の実例②成人看護方法論	12月	コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例①ロールプレイ	1月	コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例②模擬患者演習	2月	グループディスカッションに関する実践報告	8月25日(火) IV限目	カリキュラム編成の考え方
6月25日(木) I 限目	I. 「アクティブ・ラーニングの基礎知識」の伝達講習 II. 成人看護方法論におけるチーム基盤型学習 (TBL) の取り組み実例																							
7月17日(金) IV限目	「看護教育力UPセミナー 看護教員のための授業力UPのポイント～学生の活動性を高める授業づくり～」の伝達講習																							
8月7日(金) I 限目	iPad で操作する3D解剖アトラスを導入した解剖実習の試み																							
9月1日(火) IV限目	協同学習を活用した授業の紹介																							
10月	シミュレーション教育の実例①老年看護方法論																							
11月	シミュレーション教育の実例②成人看護方法論																							
12月	コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例①ロールプレイ																							
1月	コミュニケーション能力向上に向けた演習の実例②模擬患者演習																							
2月	グループディスカッションに関する実践報告																							
8月25日(火) IV限目	カリキュラム編成の考え方																							
保健福祉学部 理学療法学科	武本 秀徳	(前期) 毎週水曜日 4限 (後期) 毎週水曜日 1限	2416 室	<p>テーマ ①理学療法学科学生の学内および学外 (臨床実習) における学習支援 ②教員の教育法の向上・改善に関わる取り組み</p> <p>実施目的 実施内容①毎週開催されている学科会議にて, 各学生の学習状況・生活の状況がチューターによって報告され, 学科教員によって共有されることを図る。特に, 問題発生が心配される学生, 問題になっている学生については綿密に協議する。②教育手法に関連した各種研修会に参加した教員による伝達講習会, 各教員による各種取り組みの紹介とその効果の検証, 国家試験対策へ反映するべき講義内容の検証を行う。1回/月の割合で, 学科会議と連ねて行う。学科特有の問題に関する議論で占められるため, 対象組織は理学療法学科内としている。</p> <p>(キーワード: 学習支援, 教育法の向上・改善)</p>																				

保健福祉学部 作業療法学科	山西 葉子	第1回 2015年4月15日 第2回 2015年12月6日	保健福祉学部 2号館4階 2406室	<p>テーマ 作業療法学科教育の向上</p> <p>実施目的 学生のGPAの低下が危惧され、学生の質にあわせた教育を再構築するために、学生のGPAの傾向からみえてくる課題を考え、今後の学生支援、教育のあり方を考える必要があると考えたため。また、生活行為リハビリテーションという新たな算定基準が設定されたため、国の新制度に対応すべく、今後の教育内容の検討が必要となるため。</p> <p>実施内容 (キーワード: 学生支援, 先駆的教育)</p> <p>第1回 作業療法学科学生GPA評価を考察する</p> <p>第2回 生活行為向上リハビリテーションについて—今後の養成校教育への反映—</p>
保健福祉学部 コミュニケーション障害学科	渡辺 眞澄	詳細日程は調整中である。毎回の開始時間は12:10～	1309 演習室, その他	<p>テーマ 教員および実習指導者の研究・教育方法の共有と向上</p> <p>実施目的 コミュニケーション障害学科の教員間、および教員と学外実習施設の言語聴覚士との間で、各々が行っている研究・教育・指導方法の工夫内容を共有することにより、研究・教育の向上をはかる。</p> <p>実施内容 (キーワード: 研究, 教育の工夫, 研究会報告)</p> <p>① 月1回を目途に、各教員の研究・教育に関する知見を広める研修会を実施する。教育における工夫、参加した学会・研究会の報告、外部講師による講演、意見交換等を行う。</p> <p>② Simulated Patient (SP)を招聘した演習で、臨床実習前の学生がコミュニケーション場面を経験し態度、表情、話し方等のコミュニケーション方法を学ぶ機会を作る。</p> <p>③ 実習指導者を交えた学生指導に関する話し合いの場を設け、実習指導の充実を図る取り組みを実施する。</p>
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也	授業を公開する教員の申し出があった期日とする。	公開する授業の講義場所が該当する。	<p>テーマ 社会福祉士・精神保健福祉士の養成教育の内容の充実を図る</p> <p>実施目的 平成27年度における人間福祉学科の中期目標には、社会福祉士・精神保健福祉士の養成教育の内容の充実を図ることが掲げられている。この点について、従来から実施している実習教育の会議を通じた運営の精緻化・効率化をより一層推進するとともに、各教員の講義・演習科目の技術向上をめざして、一昨年度から実施している授業のピアレビュー事業（授業公開）を今年度も継続することにした。今年度は、昨年度よりも多くの教員の参加を目標としている。</p> <p>実施内容 (キーワード: 授業公開, ピアレビュー, ミニッツペーパー)</p> <p>平成27年度5月の学科会議で以下の取り組みを行うことが合意されている。</p> <p>(1) 各教員が年度中に1回以上、授業公開を実施する。</p> <p>(2) 公開された他の教員の授業に、年度中に2回以上参加し、ミニッツペーパー（授業評価）を教員に提出する。</p>